

中学校

平成 15 年 度

# 教育研究員研究報告書

外 国 語

東京都教職員研修センター

平成15年度 教育研究員 中学校外国語部会 名簿  
第1分科会

区市町村名	学 校 名	氏 名	備考
墨 田 区	吾 孀 第 二 中 学 校	生 垣 佳 子	
大 田 区	御 園 中 学 校	山 本 崇 雄	
杉 並 区	阿 佐 ヶ 谷 中 学 校	大 澤 陽 子	
昭 島 市	拝 島 中 学 校	今 関 眞 哉	
日 野 市	日 野 第 二 中 学 校	竹 村 き よ み	
あきる野市	五 日 市 中 学 校	服 部 千 里	

第2分科会

区市町村名	学 校 名	氏 名	備考
新 宿 区	西 戸 山 第 二 中 学 校	田 中 勢 津 子	
江 東 区	南 砂 中 学 校	佐 藤 順 一	
荒 川 区	第 三 中 学 校	小 椋 由 紀 子	
練 馬 区	大 泉 中 学 校	田 村 希	
葛 飾 区	一 之 台 中 学 校	中 井 正 弘	
八 王 子 市	中 山 中 学 校	廣 瀬 尊 貴	

全体世話人 分科会世話人

担当 東京都教職員研修センター指導主事 清野 正  
指導主事 難波浩明  
指導主事 松永 透

## 目 次

研究の背景と研究のねらい	2
1 研究の背景	2
2 研究のねらい	3
3 研究の方法	3
全体の研究構想	3
第1分科会	
1 副主題設定の理由と研究のねらい	4
2 研究の内容	4
3 実践事例	6
4 研究の成果と課題	12
第2分科会	
1 副主題設定の理由と研究のねらい	14
2 研究の内容	14
3 実践事例	17
【言語活動例1】	17
【言語活動例2】	18
【言語活動例3】	19
【言語活動例4】	21
4 研究の成果と課題	23
研究の成果と今後の課題	24

## 実践的コミュニケーション能力の基礎を養う指導と評価の工夫

## 研究の背景と研究のねらい

## 1 研究の背景

## (1) 国の動き

平成13年1月、文部科学省は「英語指導方法等改善の推進に関する懇談会 報告」を発表した。報告では、21世紀を担う児童、生徒や学生たちが、将来、英語による基礎的・実践的なコミュニケーション能力をしっかりと身に付けることは、極めて重要な課題であるとし、英語指導方法の改善について様々な提言を行っている。

また、平成15年3月31日には、『「英語が使える日本人」の育成のための行動計画』が文部科学省から発表された。本計画では今日の社会を「経済、社会の様々な面でグローバル化が急速に進展し、国際的な相互依存関係が深まっている」状況ととらえ、英語を「母語の異なる人々の間をつなぐ最も中心的な国際的共通語」として位置付けている。そして日本人に求められる英語力を「中学校・高等学校を卒業したら英語でコミュニケーションができる」、「大学を卒業したら仕事で英語が使える」と設定し、中学校卒業段階においては実用英語技能検定(英検)3級程度を取得できる英語力を目標として掲げている。そして「英語教育改善のためのアクション」として、英語の授業の改善、英語教員の指導力向上及び指導体制の充実、英語学習のモチベーションの向上などをあげるとともに、英語の授業の改善については学習指導要領の趣旨の実現と目標に準拠した評価(いわゆる絶対評価)の推進等が必要であるとし、各学校において一層の指導改善を図ることを求めている。

## (2) 学習指導要領における外国語科の目標

中学校学習指導要領では外国語科の目標を、『外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養う』としている。「実践的コミュニケーション能力」とは、単に文法や語彙などについての知識をもっているということだけではなく、実際にコミュニケーションを目的として外国語を運用することができる能力である。こうした能力を育成するためには、英文を日本語に訳す学習や教員の一方的な授業ではなく、英語をコミュニケーションの手段として使用する活動を積み重ね、語いや文法などの習熟を図り、コミュニケーション能力の育成を図っていく指導の工夫が必要である。

## (3) 「集団に準拠した評価」から「目標に準拠した評価」へ

学習指導要領に示された目標を達成するためには、指導とともに評価についても改善を図ることが必要である。平成12年12月4日、教育課程審議会は「児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価の在り方について(答申)」において、「目標に準拠した評価及び個人内評価の重視」、「指導と評価の一体化」、「評価方法の工夫改善」等を各学校が行うよう求めた。これを受け、平成13年4月27日付の文部科学省通知により、中学校の評定は相対評価から目標に準拠した評価(いわゆる絶対評価)に改められることになった。

## 2 研究のねらい

以上の背景を踏まえ、本研究では研究主題を「実践的コミュニケーション能力の基礎を養う指導と評価の工夫」とし、生徒にコミュニケーションを目的として外国語を運用することができる能力を身に付けさせるためには、どのような指導の工夫をすればよいのかを評価の工夫も視野に入れながら研究することにした。2つの分科会に分かれて、英語の「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4つの技能のうち、「発信型コミュニケーション」を重視する観点から、「話すこと」「書くこと」にそれぞれ焦点を絞り、研究を行うことにした。

## 3 研究の方法

### (1) 文献研究

学習指導要領及び先行研究、平成13年度小中学校教育課程実施状況調査報告書（国立教育政策研究所教育課程研究センター）を参考にしながら、研究の方向性を探った。

### (2) 質問紙調査

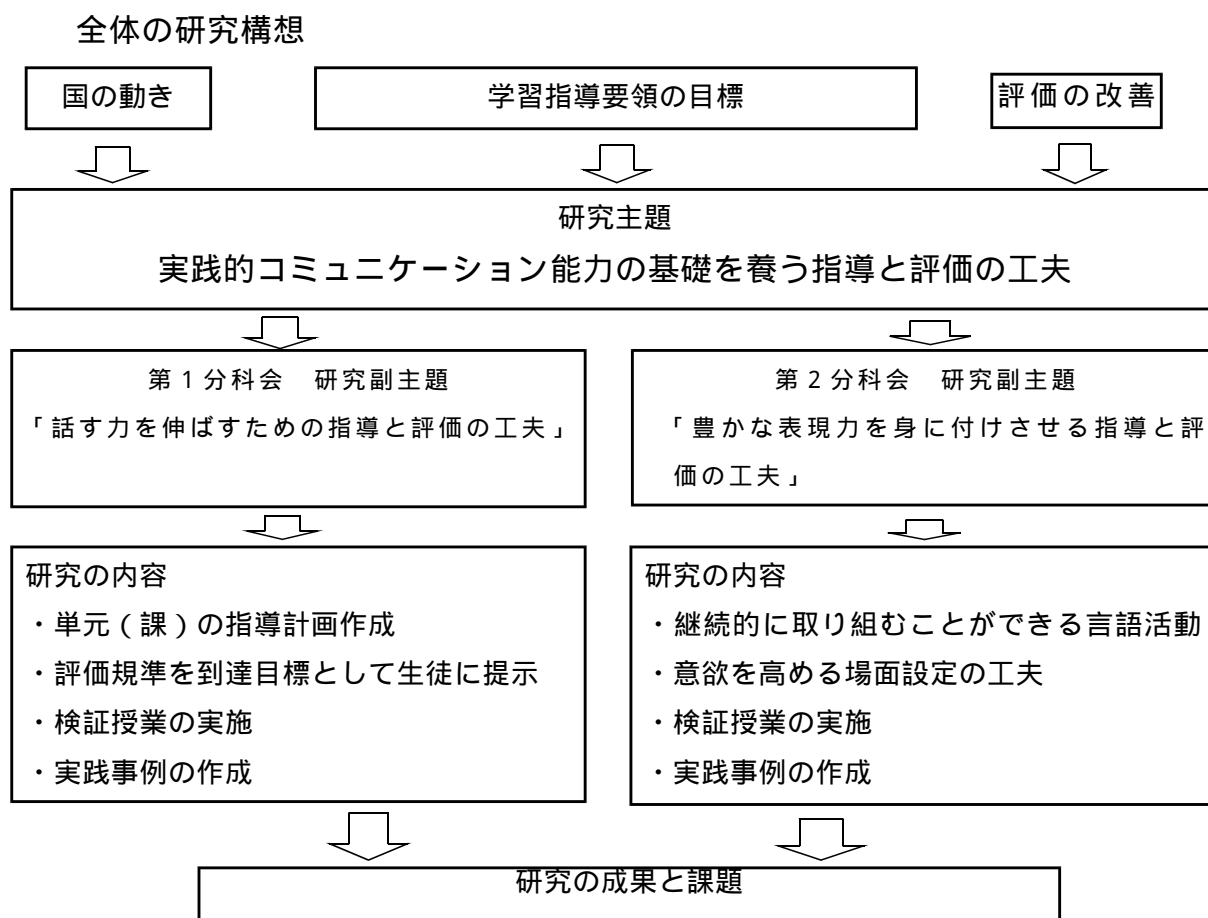
教育研究員の所属校で質問紙調査を行い、生徒の実態を把握した。

### (3) 検証授業

教育研究員の所属校において本研究に関する検証授業を行った。

### (4) 実践事例作成

検証授業における生徒の学習状況をもとに学習指導案を見直し、実践事例としてまとめた。



## 第1分科会

### 副主題

「話す力を伸ばすための指導と評価の工夫」

#### 1 副主題設定の理由と研究のねらい

平成14年4月から小・中学校で学習指導要領が全面実施となった。中学校外国語の目標は「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養う。」である。各学校ではこの実践的コミュニケーション能力の育成のため、特に「話すこと」についての指導改善が一層盛んに行われるようになってきている。

その一方で、「話すこと」の指導について多くの教師が様々な課題を抱え、生徒も「話すこと」の難しさを感じている現状がある。平成13年度小中学校教育課程実施状況調査報告書によれば、生徒に「授業で行われている学習がよく分かったか、よく分からなかったか」と質問したところ、「自分の言いたいことが英語で言えるようになる学習」について、第1学年の29.9%、第2学年の37.1%、第3学年の40.1%の生徒が「よく分からなかった」と答えている。この比率は第3学年においては、他の項目である「話されている英語が聞き取れるようになる学習」、「教科書などに英語で書かれた内容が読み取れるようになる学習」、「自分の言いたいことが英語で書けるようになる学習」、「外国の人々の言葉、文化、暮らしについて学ぶ学習」と比べて最も高い数値を示している。

また、教師に「授業で行われている学習が生徒にとって理解しやすいか、生徒にとって理解しにくい」と質問したところ、「自分の言いたいことが英語で書けるようになる学習」や「自分の言いたいことが英語で言えるようになる学習」については3学年とも「生徒にとって理解しにくい」ととらえている。

以上のことを踏まえ、第1分科会では研究副主題を「話す力を伸ばすための指導と評価の工夫」とし、英語の4つの技能のうち「話すこと」に焦点を当て、話す力を伸ばしていくためにはどのような指導と評価の工夫をすればよいのかを研究していくこととした。

#### 2 研究の内容

##### (1) 指導上の課題

教育研究員12名（第2分科会を含む）がそれぞれの所属校の実態から「話すこと」に関する指導上の課題をあげ、各校で共通する課題を以下のように整理した。

（生徒の実態と指導上の課題）

- ・「話すこと」の言語活動に積極的に取り組む生徒は多い。
- ・自分の考えを相手に伝えるなどの言語活動で、単元（課）で学習した言語材料を活用させるためのより適切な指導が必要である。

- ・言語活動において使用した表現を、別の言語活動でも活用することができるよう工夫する必要がある。
- ・「何を」「どの程度まで」話せるようになればよいのかを示し、「話すことができるようになった」という達成感を高める必要がある。
- ・授業で行う言語活動のねらいをより明確にする必要がある。
- ・生徒に「どの程度まで話すことができればよいか」といった具体的な到達目標を示す必要がある。

## (2) 課題解決のための手だて

上記の指導上の課題を解決するために、本分科会では以下の手だてを講じる必要があるのではないかと考えた。

言語活動のねらいを明確にした単元(課)の指導計画を作成すること

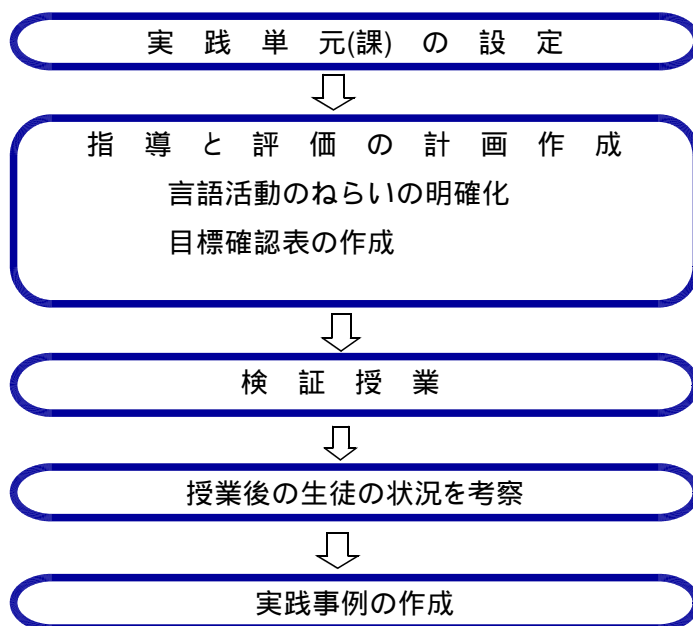
単元(課)の評価規準を設定するとともに、言語活動のねらいを明確にした単元(課)の指導計画を作成する。

評価規準を到達目標として生徒に示すこと

生徒に「話すことができるようになった」という達成感を感じさせるために、単元(課)の評価規準を「到達目標」として生徒に提示する。また、授業後に「到達目標」をどの程度達成することができたのかを生徒に自己評価させる。

## (3) 実践事例作成までの流れ

本分科会では上記の手だてを具体化して授業を積み重ね、以下の手順で実践事例を作成した。



### 3 実践事例

#### (1) 学習指導の計画

【使用教科書】NEW CROWN ENGLISH SERIES, Book 1 / Lesson 6 “School in the USA”(三省堂)

#### 【本単元(課)の主たる目標】

積極的に英語で言語活動に取り組む。

三単現の文の意味・構造を理解し、コミュニケーションの手段として運用できる。

アメリカ合衆国の中学校生活の一端を知る。

#### 【本課の評価規準】

	ア コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	イ 表現の能力	ウ 理解の能力	エ 言語や文化について の知識・理解
聞く			・友達の宝物や好きな人について聞き取ることができる。	
話す	・言語活動に積極的に取り組んでいる。 ・間違いを恐れず、人や物を紹介している。	・自分の紹介したい人や物に合わせて、語句や表現を選択し、話すことができる。		
読む	・教科書本文を間違いを恐れず音読している。	・正しい強勢、イントネーション、区切りで音読することができる。	・合衆国の中学校生活について正しく読み取ることができる。	・合衆国の中学校生活の一端を理解することができる。
書く	・Show and Tellの原稿を書くことに積極的に取り組んでいる。	・文のつながりや構成を考え、自分の紹介したい人や物について英文を書くことができる。		・三単現の文構造についての知識がある。

#### 【指導と評価の計画】

時間	Warm-upと復習	教科書 (新文型・題材)	主な活動 (言語活動など)
1st (本時)	Bingo Short Skit “Lesson 5”	Lesson 6-1 三人称単数現在形の文	Game “Who is it?” 1
本課の評価規準との関連	イ		ア
評価方法など	音読テスト		活動の観察



2 <sup>nd</sup>	Bingo Short Skit "Lesson 5"	Lesson 6-1 三人称単数現在形の文	Game "Who is it?" 2
本課の評価規準との関連	イ	ア	イ
評価方法など	音読テスト	活動の観察	活動の観察
3 <sup>rd</sup>	Bingo Short Skit "Lesson 5"	Lesson 6-2 三単現の疑問文と答え方	Show and Tell 1 (発表準備-原稿を作る)
本課の評価規準との関連	イ	ア	ア
評価方法など	音読テスト	活動の観察	活動の観察
4 <sup>th</sup>	Battleships Short Skit "Lesson 5"	Lesson 6-3 三単現の否定文	Show and Tell 2 (発表の準備と練習)
本課の評価規準との関連	イ	ア	
評価方法など	音読テスト	活動の観察	
5 <sup>th</sup>	Battleships Short Skit "Lesson 5"	Lesson 6 全体 三単現のまとめ	Show and Tell 3 (発表)
本課の評価規準との関連	イ	ウ	ア イ ウ
評価方法など	音読テスト	筆記試験	活動の観察
6 <sup>th</sup>	Battleships Short Skit "Lesson 5"	Lesson 6 全体	Show and Tell 4 (発表)
本課の評価規準との関連	イ	ウ	ア イ ウ
評価方法など	音読テスト	筆記試験	活動の観察
後日			定期考査
本課の評価規準との関連			イ ・エ ・エ
評価方法など			筆記試験とリスニング

【本時の主たる目標】

- 三単現の表現を用いた言語活動に積極的に取り組む。
- 主語に合わせて動詞を変化させることを理解する。

【本時の学習指導案略案】

目標確認表については10ページ参照

時	指導過程	生徒の活動	評価規準	教師の支援
1	1 Greeting	一人一人英語で挨拶をする。		英問英答を行うなど英語の授業の雰囲気作りをする。
5	2 Rhythm Bingo	単語をリズムにあわせて発音し積極的にゲームに参加する。		リズムにあわせて単語を発音する。
	3 Aim of Today's Lesson	本課及び本時の目標を知る。間違っても積極的に英語目標確認表に記入する。		本課の目標とともに本時の目標と活動を黒板に提示す

4	<p>で話そう。 ペアワークやグループ活動で友達と協力しよう。 主語に応じて動詞を変化させよう。</p>	<p>今日の目標は何だろう？</p> 		<p>る。 &lt; 板書 &gt; <b>SHOW &amp; TELL</b> (本課の目標) 宝物や好きな人を紹介しよう。 <b>Skit</b> (復習) 英語らしく読もう。 <b>Game "Who is it?"</b></p>
5	<p>4 Short Skit Presentation L5 "Alice and Humpty" (1) Short Skit (2) Chorus Reading</p>	<p>(1) あらかじめ指定したページをペアで音読する。 (2) 英語の音のつながりに注意しながら音読する。</p>	<p>&lt; 表現の能力 &gt; 正しい強勢、イントネーション、区切りで音読することができる。</p>	<p>(1) あらかじめペアを指名し発表の準備をさせる。 (2) 音のつながりを意識させながら音読する。</p>
10	<p>5 Oral Introduction</p>	<p>絵や写真を見ながら、表現を練習する。</p>		<p>絵や写真を使って、本文の内容を導入する。</p>
10	<p>6 Reading Practice (1) New Words (2) Model Reading (3) Choral Reading (4) Buzz Reading (5) Check of Understanding</p>	<p>(1) カードを見ながら発音を練習する。 (2) モデルをしっかり聞く。 (3) 教師の後に続いて音読練習をする。 (4) 個人で音読練習をする。 (5) 本文の内容を確認する。</p>		<p>(1) 句の発音モデルを示す。 (2) CDを流す。 (4) 音読が不十分な生徒に個別指導をする。 (5) 口頭でQ &amp; Aを行い内容を確認する。</p>
10	<p>7 Game "Who is it?"</p> <p>積極的に英語で話せばいいんだな...</p> 	<p>(1) ゲームで使う表現を確認する。 (2) ペアで練習する。 (3) グループ対抗でゲームをする。</p>	<p>&lt; コミュニケーションへの関心・意欲・態度 &gt; 間違いを恐れず言語活動に取り組んでいる。</p>	<p>(1) 表現を確認し、全体で練習する。 (2) 表現の理解が不十分なペアを支援する。 (3) ゲームのねらいを確認する。</p>
5	<p>8 Evaluation</p>	<p>本時の到達目標が達成できたかどうかを目標確認表により自己評価する。</p>		<p>本時の目標を生徒に再度確認し、目標確認表の記入状況を見る。</p>
	<p>9 Closing</p>	<p>授業終了の挨拶をする。</p>		<p>授業終了の挨拶をする。</p>

(2) 副主題に迫るための具体的な手だて

言語活動のねらいを明確にした単元(課)指導計画の作成

ア 単元(課)の指導計画作成にあたっては、単元(課)の目標を踏まえ、ねらいが明確になった言語活動を指導計画に位置付けることが大切である。そこで、本単元(課)の主たる目標や本単元(課)で扱う言語材料などから、授業で行う話すことの言語活動を次の観点により選択することにした。また、生徒にも授業の最初にねらいを伝えた上で、言語活動に取り組みさせることにした。

\* 単元の前半において、3人称・単数・現在の動詞を使った表現の練習として、生徒が意欲的に取り組むことができる言語活動

\* 単元の後半に生徒の「話すこと」の具体的な到達目標として実施する言語活動

イ 上記の観点から以下の言語活動を単元(課)の指導計画に位置付けた。

【Who is it?】 自校の教員など生徒がよく知っている人物を、ヒントを参考にして当てるゲーム形式の言語活動

(指導のポイントと展開方法)

ペアまたは3人1組のグループを作る。

一人の生徒がある人物についての説明が書かれたカードを引く。カードを見ながらもう一人の生徒に、ある人物が誰なのか英語でヒントを出し、“Who is it?”とたずねる。

ヒントを聞いてそれが誰なのかかわかったら、“Is he / she ~?”と聞いて確かめる。

正解の場合には“Yes, he/she is.”と言い、間違っていたら“No, he/she isn't.”と言って次のヒントを出す。

ヒントを英語で表現し、また相手の出した英語のヒントを聞いて理解しようとするにより、単元の言語材料の定着を図る。また言語活動で使った表現を、単元の後半に行う別の言語活動で再度活用させる。

(評価方法)

\* 観察により間違いを恐れず言語活動に取り組んでいるかどうかを評価する。

【Show & Tell】 自分の宝物や好きな人をクラスの友達に紹介する言語活動

(指導のポイントと展開方法)

紹介する人や物を決め、スピーチの原稿を書く。その際、教師は原稿や発表のモデルをプリント等によりできるだけ数多く生徒に例示する。

作った英文を外国語指導助手(ALT)等にチェックしてもらい、スピーチの練習をする。

単元(課)の言語材料を十分練習させた上で発表させる。

発表者以外の生徒は、発表の内容をメモする。

(評価方法)

\* 観察及び評価シート等により、以下の3つの規準で評価する。

・間違いを恐れず、積極的に英語を使って人や物を紹介している。

・自分の紹介したい人や物に合わせて、語句や表現を選択し、話すことができる。

・友達の宝物や好きな人について聞き取ることができる。

## 到達目標の提示

### ア 生徒の到達目標の設定

本単元（課）の評価規準をもとに、生徒の到達目標を設定する。また、授業の中で生徒が到達目標を常に意識して学習活動に取り組めるように、授業の学習活動に合わせた文言にして生徒に提示する。

本単元（課）の話すことの評価規準	生徒に伝える到達目標
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 言語活動に積極的に取り組んでいる。</li><li>・ 間違いを恐れず、人や物を紹介している。</li><li>・ 自分の紹介したい人や物に合わせて、語句や表現を選択し、話すことができる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 間違っても積極的に英語で話そう。</li><li>・ Show &amp; Tellに積極的に取り組もう。</li><li>・ 相手にきちんと伝わるように紹介の仕方を考えよう。</li></ul>

### イ 到達目標を生徒に示す手立て

具体的な示し方としては口頭、または板書によって示す方法もあるが、授業後に到達目標をどの程度達成することができたのかを生徒に自己評価させるため、以下に示す目標確認表を用いて到達目標を提示する。

### ウ 目標確認表

#### 【活用方法等】

単元（課）の最初に時間に配布し、単元（課）の到達目標を確認する。生徒は1単元（課）で1枚の目標確認表を使用する。

毎時間の最初に本時の目標を確認する。

（例）「今日の授業ではインタビューゲームをやります。項目1の「間違っても積極的に話そう」が到達目標です。確認表の 印に色を塗って下さい。」

授業終了時に生徒が達成状況を自己評価する。

（例）「今日の到達目標が達成できたら 印を塗りつぶして下さい。」

単元（課）終了時に単元全体を通しての学習状況を振り返り、今後がんばりたいこと、わからないこと、授業への要望、先生に伝えたいことなどを記入する。

#### 【使用上・作成上の留意点】

毎時間の授業の最初と最後に確認・評価の時間を確保する。

各授業で生徒に示す目標を精選する。

目標確認表は生徒自身が到達目標の達成状況を確認し、今後の学習に役立てるためのものであり、教師はこれを総括的評価の材料としては使用しない。

単元の学習内容によって、目標確認表の文言を書き換える。

【本単元（課）で使用した目標確認表】

英語科目目標確認表（話すこと）Lesson 6

授業の始め：今日の目標 に色を塗ろう。授業の終わり：目標達成できたら に色を塗ろう。

観点	授業の目標	月 日		月 日		月 日		月 日		月 日			
		目標	達成	目標	達成	目標	達成	目標	達成	目標	達成		
の 関 心 ・ 意 欲 ・ 態 度 へ の コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	言語活動へのやる気をもって取り組もう	英語は使ってみることが上達の秘訣です。間違いを恐れずつかってみよう。											
	1 間違っても積極的に英語を話そう。												
	2 SHOW & TELL に積極的に取り組もう。												
	3 友達の発表に英語で質問しよう。												
	4 ペアワークやグループ活動で友達と協力しよう。												
表 現 の 能 力	正確に話そう	習った表現の発音や文法（語順）などもしっかりマスターしよう。											
	5 英語らしく話そう。												
	6 主語に応じて動詞を変化させよう。												
	7 自分の宝物（好きな人）のことを伝えよう。												
	場面や相手、相手の言っていることを考えて話そう	会話をコミュニケーションとして成立させるためには、場面や相手を考えよう。											
	8 相手にきちんと伝わるように紹介の仕方を考えよう。		○		○		○		○		○		○
	9 質問に英語で答えよう。												
	10 速さや声の大きさに気をつけて話そう。												
	11 ジェスチャーやアイコンタクトを取りながら話そう。												

Lesson の反省 \_\_\_\_月\_\_日

できたこと、だいたいできたこと \_\_\_\_\_

○できなかったこと、不十分だったこと \_\_\_\_\_

がんばりたいこと・わからないこと・  
授業への要望・先生に伝えたいこと等

Class \_\_\_\_ No. \_\_\_\_ Name \_\_\_\_\_

(3) 考察

検証授業後、授業を行った学級の生徒38名を対象に以下の調査を実施し、到達目標を示すことが生徒の学習にどのような影響を及ぼしたのかを探ることにした。

<p>【問 1】</p> <p>Lesson 6 の学習では、目標確認表を使って到達目標を確認しながら授業を進めました。あなたの学習意欲は目標確認表を使うことによって高まりましたか。</p> <div style="text-align: center;"> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><input type="checkbox"/> 高まった。</p> <p><input type="checkbox"/> どちらかといえば高まった。</p> <p><input type="checkbox"/> 何とも言えない。</p> <p><input type="checkbox"/> 高まらなかった。</p> </div>	<p>【問 2】</p> <p>今日の授業で、あなたは到達目標を意識しながら学習を進めることができましたか。</p> <div style="text-align: center;"> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p><input type="checkbox"/> わからない</p> </div>
--	--

【問3】Lesson 6 の学習を終えて、感じたことを書いてください。

(生徒の記述から)

- ・授業の最初に目標を言ってくれると何を学習するのか分かって良い。
- ・目標に対して自分としての課題が見つかった。
- ・授業にけっこう集中できる。
- ・発音はうまくできたけど、声が小さくて、つまってしまった。今度発表するときは、前を向いてすらすら言えるように練習していきたいです。
- ・アイコンタクトや、声の大きさに課題が残った。授業で発表の練習をする時間があったのにあまり練習しなかったのもったいなかったと思った。
- ・原稿を読むんじゃなくて、もっとジェスチャーやアイコンタクトを取って話せるようになりたい。
- ・発表は準備をしてたから英語らしく読めたしうまくいったけど、質問に英語で答えることができなかった。
- ・英語を聞くことが苦手なので、友達の発表を聞いて、英語で質問ができなかった。もっと友だちが話す英語を理解できるようになりたい。
- ・一学期よりも英語がわかるようになった。でも、もっとわかるようになりたい。
- ・みんなで練習するときあまり声を出していなかったのも、あまり英語らしく読めなかった。次からはもう少し声を出すようにしようかなと思いました。
- ・目標確認表を使うと、この次の授業でどんなことに気を付けて学習すればよいのかがわかるので、授業が楽しくなってきた。
- ・授業中に英語を使うことができた。教科書も読めるようになった。

(アンケート結果から)

到達目標を設定し、目標確認表により授業の最初に到達目標を確認させることは、生徒の学習意欲を高めることにつながったと考える。また、記述にも見られるとおり、生徒は到達目標を達成できたのかできなかったのかという観点で自己の学習状況を振り返ることができるようになり、次時の授業でどんなことに注意して学習に取り組めばいいのかを理解するようになったと言える。

#### 4 研究の成果と課題

第1分科会では、「話す力を伸ばすための指導と評価の工夫」という研究副主題を設定し、「言語活動のねらいを明確にした単元(課)の指導計画を作成すること」と「評価規準を到達目標として生徒に示すこと」の2つを研究副主題に迫る具体的な手だてとして実践研究を進めてきた。研究の成果と課題は以下のとおりである。

##### (1) 研究の成果

###### 言語活動に取り組む姿勢の変化

これまででも生徒は言語活動に対して意欲的であり、「ゲームをしたり歌を歌ったりする活動は楽しい」という生徒の声も多かった。しかし、言語活動で意欲的に英語を使っていた生

徒でも、次の授業ではその英語を使うことが難しいという場合もあり、言語活動のねらいを生徒に意識させることが必要であった。今回の研究では、単元（課）の指導計画作成の段階から言語活動のねらいを明確にし、そのねらいを生徒に伝えた上で言語活動に取り組みさせた。その結果、「このゲームを通して、身に付けることは3単元のSの使い方である」、「このゲームで使った表現は次の授業で行うゲームでも使う」などの意識をもって生徒が言語活動に取り組むようになり、言語活動において生徒が学んだ表現を積極的に使おうとする場面が多く見られるようになってきている。

#### 生徒の学習意欲の向上

多くの生徒は「英語を話せるようになりたい」と願っている。しかし、平成13年度小中学校教育課程実施状況調査報告書にもあるように「自分の言いたいことが英語で言えるようになる学習は難しい」とも感じている。この背景としては中学校段階では学習する言語材料が限られているため、自分の言いたいことを全て英語で話すことはできない場合があるということも考えられる。そこで生徒に「話すことができた」という達成感を感じさせるために、「今の段階では、ここまでできればよい」という到達目標を示すことにしたところ、生徒は到達目標を達成することを意識して授業に取り組むようになった。

また、目標確認表の自由記述の欄にも、「ゲームで使う表現の練習が足りなくてスムーズにゲームができなかったので、今度はもっと練習をしてからゲームをしたい。」など、自分の学習を振り返る記述が数多く記入され、学習意欲の高まりも確認することができた。

#### 授業のねらいの明確化

到達目標を生徒に示し、生徒がその達成状況を授業後に自己評価することは、生徒の学習意欲を高めるだけでなく、教師が授業のねらいを一層明確にして授業を行うことにつながる。生徒に示した到達目標とこの目標を達成するために行う授業の内容が一致していなければ、当然生徒は自己評価によって達成状況を確認することはできないと考える。生徒に「話すことができるようになった」という達成感を感じさせるため到達目標を設定したが、授業のねらいの明確化にもつながることになった。

## (2) 今後の課題

本研究では単元の指導計画の作成にとどまったが、今後は年間指導計画や3年間を通した指導計画についても工夫することが必要である。

本研究では学習意欲の高まりについては確認できたが、学習意欲の向上が話すことの技能の習得につながったかどうかについては検証できていない。今後はこの点についても実践研究を進めていく必要がある。

## 第2分科会

### 副 主 題

豊かな表現力を身に付けさせる指導と評価の工夫

#### 1 副主題設定の理由と研究のねらい

##### (1) 副主題設定の理由

「実践的コミュニケーション能力の育成」が学習指導要領の目標に示され、「話すこと」「聞くこと」といった音声によるコミュニケーションが重視されてきた。教育研究員や「東京の教育21」研究開発委員会等の先行研究を見ても、インフォメーションギャップを用いたペアワーク、インタビューゲーム、チャット、スキット、スピーチなど様々な「話すこと」の言語活動の有効性が示されており、各学校でも「話すこと」の指導について様々な工夫がなされていると考えられる。また英語教育の充実を図るため外国語指導助手（ALT）が拡充され、各学校においては外国語担当教員とALTがチームティーチングを行う機会も増えている。

一方、英語の4技能のひとつである「書くこと」については、平成13年度小中学校教育課程実施状況調査報告書にもあるように「テーマに沿ってつながりのある英文を書くことができない」、「正しい語順で英文を書くことができない」といった課題のあることが指摘されている。また平成15年度東京都立高等学校入学者選抜学力検査結果に関する調査（平成15年5月 東京都教育委員会）では、平成15年度に実施した外国語の学力検査の結果を踏まえ、中学校における英語の指導の改善の視点として「音声による実践的コミュニケーション能力の育成を重視しつつ、初歩的な英語で自分の考えなどを正しく伝えることができる、書く力の育成」をあげている。

こうしたことを踏まえ、第2分科会では「書くこと」の指導を意図的・計画的に行い、言語の知識を習得するための言語活動とともに、自分の考えや気持ちを「書くこと」によって伝え合う言語活動を授業に多く取り入れることで、自分の考えや気持ちを相手に伝えることができる豊かな表現力を身に付けさせることができるのではないかと考えた。また、「書くこと」の指導を充実させることは、他の3技能、特に「話すこと」の指導の充実にもつながると考えた。そこで、本分科会では「豊かな表現力を身に付けさせる指導と評価の工夫」という副主題を設定し、「初歩的な英語で自分の考えなどを正しく伝えることができる」生徒の育成を目指し研究を進めることにした。

#### 2 研究の内容

##### (1) 指導上の課題

教育研究員12名（第1分科会を含む）がそれぞれの所属校の実態から「書くこと」に関する指導上の課題をあげ、各校で共通する課題を次のように整理した。



(生徒の実態と指導上の課題)

- ・「書くこと」に対する興味・関心は高い。
- ・英文を書く際に使用する語いや文型を定着させる指導の工夫が必要である。
- ・内容につながりのある複数の英文を書くことができるような指導の工夫が必要である。
- ・継続的に「書くこと」の指導を行う必要がある。
- ・「書くこと」の言語活動を行う際、場面設定を明確にして指導する必要がある。

(2) 課題解決のための手だて

上記の指導上の課題を解決するために、本分科会では以下の手だてを講じる必要があるのではないかと考えた。

集中して継続的に取り組ませることができる「書くこと」の言語活動例の作成

語いや文型の定着を図ったり、つながりのある複数の英文を書くことができるようになるためには、「書くこと」の言語活動を繰り返し行うことが必要であることから、毎日の授業の中で継続して取り組むことができる言語活動例を作成する。

場面設定を工夫した「書くこと」の言語活動例の作成

場面設定を工夫し、自分の考えや気持ちを伝える「書くこと」の言語活動例を作成する。

(3) 実態調査

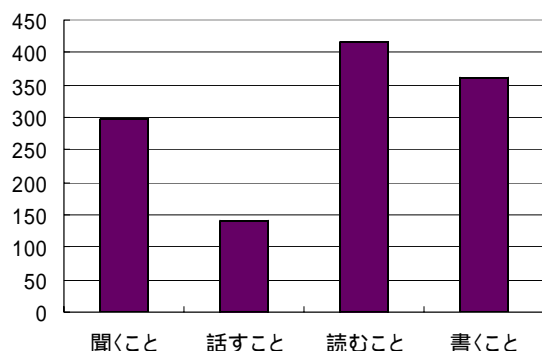
本分科会では、上記の言語活動例を作成するためには、「生徒が英文を書くときに難しいと感じていることは何か」、「生徒が書きたいと思う題材は何か」等を把握する必要があると考えた。そこで、下記のとおり生徒の実態調査を行うことにした。

調査対象 1,122名(研究員の所属校にて実施 1年生180名、2年生314名、3年生628名)

実態調査の結果と考察

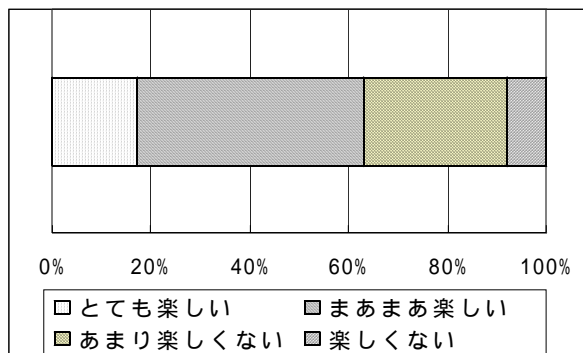
【問1】 英語の4技能の中で、最も得意な技能は何ですか。

人数



4技能「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の中で、最も得意とする技能は何かをたずねたところ、「読むこと」と答えた生徒が最も多かった。逆に得意と答えた生徒が最も少ないのは「話すこと」であった。「書くこと」については、「読むこと」に次いで得意とする生徒が多かった。

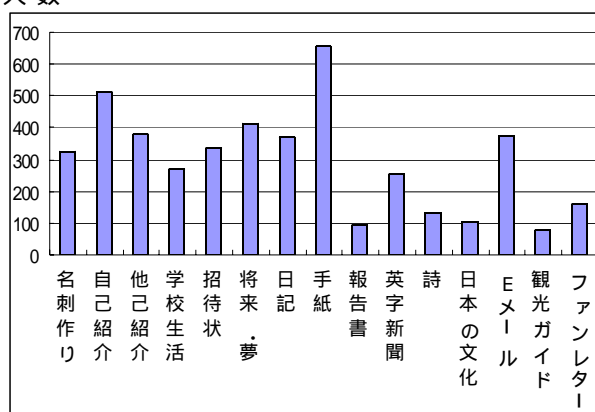
【問2】 英語を書くことは楽しいですか。



生徒は「書くこと」の学習をどのように感じているのかをたずねたところ、およそ60%の生徒が「書くこと」は『とても楽しい』『まあまあ楽しい』と答えている。

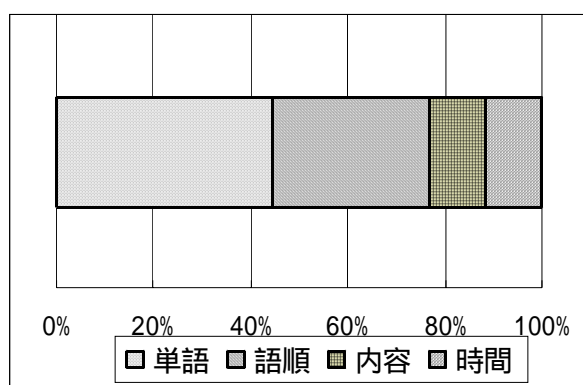
【問3】 書きたいと思う題材を選んでください。

人数



書きたいと思う題材は何かを生徒にたずねたところ、「手紙」や「自己紹介」が上位を占め、「将来・夢」、「他己紹介」、「Eメール」がこれに続いた。これらの題材に共通しているのは、読み手が特定されているということである。「書くこと」の言語活動では、生徒の身近な暮らしにかかわる題材を取り上げ、読み手を意識することが大切であることが分かった。

【問4】 書くときに難しいと感じていることは何ですか。



「書くこと」の言語活動において、生徒が難しいと感じているのは「単語」「語順」の2点が圧倒的に多かった。「単語」や「語順」に誤りのない英文を書くことは難しいことであり、生徒に「単語」や「語順」の間違いを恐れることなく、積極的に書こうとする態度を身に付けさせることが必要である。

実態調査の結果を踏まえ、本分科会では次の2つの観点から言語活動例を作成することにした。

集中して継続的に取り組ませることができる「書くこと」の言語活動例

(言語活動例 1 2 3)

読み手を意識した「書くこと」の言語活動例 (言語活動例 4)

### 3 実践事例

#### (1) 集中して継続的に取り組ませることができる「書くこと」の言語活動例

言語活動例 1	ビンゴゲーム
---------	--------

活動のねらい	: 単元(課)で実施する「書くこと」の言語活動で使用する語いを、繰り返し学習する。
配当時間	: 授業の始め5分間
活動の工夫	: 各単元(課)の「書くこと」の言語活動で使用する文型や語いをビンゴの中に盛り込む。

指導のポイントと展開方法	
展開方法	指導のポイント
生徒はシートに単語を記入する。 教師が読み上げた英文を聞き、生徒は英文の中に記入した単語が含まれていたら、その単語が書いてある枠に印を付ける。	ゲームを始める前に、単語の発音練習を十分行う。 教師は強勢やイントネーション、区切りに注意して英文を読み上げる。生徒が英文を聞き取れない場合は、繰り返し読み上げる。

#### 【使用教材】

### L e t ' s P l a y B I N G O

<b>B</b>	<i>It is</i>	easy	difficult	boring	exciting	good	bad	interesting		
<b>I</b>	<i>for</i>	me	you	him	her	us	them	Tom		
<b>N</b>	<i>to</i>	play	read	run	eat	watch	get	enjoy		
<b>G</b>	~	the piano	baseball	volleyball	a book	newspaper	a cake			
<b>O</b>	<i>I'm</i>	an ice cream	TV	a movie	happy	glad	sad	excited	busy	tired

<b>B</b>								
<b>I</b>								
<b>N</b>								
<b>G</b>								
<b>O</b>								

活動のねらい：つながりのある英文を書くことを学習する。

配当時間：授業の始め10分間

活動の工夫：ディクテーションをつながりのある英文を書くという言語活動に発展させる。

## 指導のポイントと展開方法

展開方法	指導のポイント
<p>前時に学習した教科書の本文を教師の後に続けて音読する。 教科書を閉じて、CDから流れる教科書の音読を聞く。 CDが止まる。CDから聞こえた最後の英文をシートに書き取る。 教科書で答えを確認する。 書き取った英文に3つのつながりのある英文を書き加える。</p>	<p>言語活動に入る前に、教師の後に続けて音読をするなど、前時に学習した本文の内容を思い出させる。 英文を書き加える際に、教師はandやbutなどの接続詞を使ってもよいことを説明する。</p>

【教科書の本文】 NEW HORIZON English Course, Book 3 / Unit 5 (東京書籍)

**Mother:** Mark, stop playing that video game.

**M a r k:** Why? I just started.

**Mother:** I don't care. Turn it off.

**M a r k:** I don't know what you mean.

**Mother:** It's too violent for you.

I don't want you to play it.

【生徒の作品】

活動のねらい：「書くこと」の言語活動を毎時の授業に位置付けることにより、「書くこと」に慣れ親しませる。

配当時間：授業の始め10分間～15分間

活動の工夫：生徒は作成した作文カードをファイルにまとめ、単元(課)の最終時に行う「書くこと」の言語活動の際、これを参考資料として活用する。

## 指導のポイントと展開方法

	展開方法	指導のポイント
第1時	<p>教師は単元(課)の最終時に「修学旅行の思い出(例)」というテーマで英文を書くことを予告する。</p> <p>生徒は英文を書くときに必要となる英単語を予想し、作文カードに書き留める。書き留めた単語を互いに発表し、教師はこれを黒板に板書する。</p>	<p>教師はテーマに関する会話をALTと行ったりスピーチをしたりすることにより、英単語を書き留めるための支援を行う。</p> <p>生徒は友達の発表を参考に、使える単語を増やす。</p>
第2～4時	<p>教師はテーマに関する疑問文を板書し、その答えを3文で作文カードに書かせる。</p> <p>(質問例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Where did you go on the first day?</li> <li>・ Where did you go on the second day?</li> <li>・ How did you go there?</li> <li>・ How was the weather?</li> <li>・ When did you go there?</li> <li>・ Did you enjoy it?</li> <li>・ What temple do you like the best?</li> </ul> <p>生徒は書いた英文を互いに発表する。作文カードを回収し、次時に返却する。</p>	<p>机間指導の際には、文法上の誤りはなるべく指摘せず、書く意欲を高めることを重点に指導する。</p> <p>日本語をそのまま英訳しようとする生徒が多いので、既習の文型を使って書くよう助言する。</p> <p>3文を書くことが難しい生徒には、回答例を黒板で示したり、個別に英問英答したりするなどして支援する。</p> <p>回収した作文カードにより、3文書くことができたかどうか評価する。文法上の誤りについては下線を引くのみとし、多かった誤りについては、次時に全体で確認する。</p>
第5時	<p>作文カードを参考にして、「修学旅行の思い出(例)」というテーマで英文を書く。互いに発表する。</p>	<p>本単元(課)で作成した作文カードだけでなく、前の単元(課)で作成した作文カードも参考にして英文を書くように助言する。</p> <p>内容につながりのある英文を書くことができたかどうかを評価する。</p>

【評価の工夫】

授業で生徒が英文を書いているときには、細かい文法上の誤りは指摘せず、3文以上の英文を書くことができたかどうかを評価した。書いたことを誉め、英文を書くことができるという自信を付けさせることに重点を置いた。作文カードを回収して返却する際も、文法上の誤りは下線を引いて指摘するにとどめ、書いた英文の分量に応じて丸を付け、英文をたくさん書くように励ました。

【生徒の作品】

作文カード		
Class	No	Name
今回のテーマ 「修学旅行の思い出」		
1 関連する単語を書いてみよう。		
2 先生の質問に英語で答えてみよう。		

(2) 読み手を意識した「書くこと」の言語活動例

言語活動例 4	読み手を意識した手紙の作成
---------	---------------

活動のねらい：単元(課)の学習で学んだ表現を使って、まとまった英文を書く。  
 配当時間：25分間程度  
 活動の工夫：生徒が実際に体験したことをテーマとし、読み手を意識することによって「書くこと」の意欲を高める。

指導のポイントと展開方法		
	展開方法	指導のポイント
第 1 ~ 4 時	<p>教師は生徒に単元(課)の最終時に「移動教室で最も印象に残っていること、楽しかったこと」というテーマで手紙を書くことを予告する。</p> <p>ビンゴゲーム(言語活動例1)、ディクテーション+(言語活動例2)、作文カード(言語活動例3)により、関連する表現について学習する。</p>	<p>書いた手紙を上級生に渡し、上級生からもその返事をもらうことになっていることを告げ、「書くこと」への意欲を高める。</p> <p>関連する表現の学習を毎時間のはじめ10分程度を使って、継続して行う。</p>
本 時	<p>関連する表現について復習する。</p> <p>「移動教室で最も印象に残っていること、楽しかったこと」について手紙を書く。口頭で発表する。</p>	<p>手紙を書くときには、以下の点に注意して書くよう指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事実だけでなく自分の感想も入れた英文を書くこと。</li> <li>・上級生に対して問いかける英文も入れること。</li> <li>・自分の考えや気持ちを率直に英文で書くこと。</li> <li>・実際に上級生に手紙を渡し、英語で返事を書いてもらうので、自分の伝えたいことが上級生に伝わるよう、内容につながる英文を書くこと。</li> </ul> <p>生徒の学習状況に応じて、作文カードやビンゴに記載された単語を参考にするよう助言する。</p> <p>友達と相談しながら作業を進めてもよいことにする。</p>
第 6 時	<p>上級生が書いた返事を読む。</p> <p>以下の項目について自己評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを上級生に伝えることができたか。</li> <li>・単元(課)で学習した表現を活用することができたか。</li> </ul>	<p>上級生には、なるべく下級生が理解することができる英文を使うよう指導する。</p> <p>自己評価により、学習の振り返りを行う。</p>

【評価の工夫】

使用教材の中に自己評価の欄を入れ込み、ねらいを意識しながら活動に取り組めるようにした。また、上級生の返事を読むことにより、自分の考えが読み手に伝わったのかどうかを確認できるようにした。

【生徒の作品】

上級生に手紙を書こう

≈ 3年生に移動教室の報告をしよう ≈~~~~~

≈ 3年生からの返事 ≈~~~~~

（今回の学習を振り返ろう。）

- 1 自分の考えを上級生に伝えることができましたか。  
ア はい      イ いいえ      ウ どちらとも言えない
- 2 単元(課)で学習した表現を活用することができましたか。  
ア はい      イ いいえ      ウ どちらとも言えない
- 3 次の単元(課)で頑張りたいことは何ですか。

Class

No

Name



#### 4 研究の成果と課題

第2分科会では、「豊かな表現力を身に付けさせる指導と評価の工夫」という研究副主題を設定し、「集中して継続的に取り組ませることができる書くことの言語活動例の作成」と「場面設定を工夫した書くことの言語活動例の作成」の2つを研究副主題に迫る具体的な手だてとして実践研究を進めてきた。研究の成果と課題は以下のとおりである。

##### (1) 研究の成果

###### 「書くこと」に取り組む姿勢の変化

日常の授業の中で「書くこと」に継続的に取り組んだことにより、指定されたテーマについてまとまった英文を書くことに抵抗感がなくなってきた。以前は「何を書いたらいいのかわからない」と書くことをあきらめていた生徒も、あらかじめ必要な表現を繰り返しゲームなどで使うことで、徐々に書くことに慣れてくるようになった。

###### 読み手を意識した書くことの意欲の高まり

上級生など読み手を意識したことで、相手に自分の言いたいことを伝えようとする意識が高まり、書く内容を吟味し意欲的に英文を書くようになった。また、上級生からの返事は書くことに対する大きな励みとなり、「次はもっといろいろなことを書いてみたい」という書くことの学習に対する動機付けにもつながった。

###### 既習事項の活用

日本語を逐語訳で英語にしようとしていたために、英文を書くことができない場面があったが、単元(課)の中で関連する表現を繰り返し学習することにより、学習した表現と自分の言いたいことを関連付けて考えることができるようになってきた。既習の表現を活用して書くことに取り組めるようになってきた。

##### (2) 今後の課題

###### 学習状況に応じた教材の開発

今回の実践研究では、いずれの言語活動例においても1つの教材を用意するにとどまったが、生徒によっては活動を終えるまでに時間のかかる生徒もいたことから、今後は生徒の学習状況に応じた教材を数種類用意しておくなどの工夫が必要であると考えられる。

###### 正確さの定着

第2分科会では、生徒の「書くこと」に対する意欲高めることが大切と考え、文法に従って正確に書くことよりも「間違いを恐れず積極的に書くこと」に重点を置いて実践研究を進めた。しかし、「正確に書くこと」も大切な指導事項であり、今後「正確さ」を身に付けさせる観点からも実践研究していく必要がある。

###### 年間指導計画の工夫

今回の研究では、言語活動例の作成にとどまったが、生徒にまとまった英文を書く力を身に付けさせるためには「書くこと」の指導を年間指導計画に適切に位置付け、意図的・計画的に進めることが大切である。今後、年間指導計画の工夫についても実践研究を積み重ねることが必要である。

## 研究の成果と今後の課題

本研究では「実践的コミュニケーション能力の基礎を養う指導と評価の工夫」という研究主題を設定し、2つの分科会に分かれ、それぞれ「話すこと」、「書くこと」の指導の工夫について評価も視野に入れながら実践研究を進めてきた。

第1分科会では「話す力を伸ばすための指導と評価の工夫」という副主題を設定し、実践研究を進めた。副主題に迫る具体的な手だてとして「言語活動のねらいを明確にした単元(課)の指導計画の作成」と「到達目標の提示」をあげた。

第2分科会では「豊かな表現力を身に付けさせる指導と評価の工夫」という副主題を設定し、実践研究を進めた。副主題に迫る具体的な手だてとして「集中して継続的に取り組ませることができる書くことの言語活動例の作成」と「場面設定を工夫した書くことの言語活動例の作成」をあげた。

### (1) 研究の成果

#### 学習意欲の向上

第1分科会と第2分科会がそれぞれ考えた具体的な手だては、生徒の学習意欲を高めることに有効であることが確認できた。授業後に行った調査等を見ても、生徒は意欲的に学習に取り組んでいたことが分かった。

#### 指導計画の工夫

実践的コミュニケーション能力の基礎を養う指導を行うためには、1単位時間の学習指導案だけでなく、単元(課)全体の指導計画を工夫することが必要であることを再確認することができた。言語活動のねらいを明確にし、単元(課)の指導計画に位置付けることで、コミュニケーション活動をより豊かにすることができると考える。

### (2) 今後の課題

#### 年間指導計画の工夫

単元(課)の指導計画にとどまらず、年間指導計画の工夫も考えていく必要がある。

#### 個に応じた指導の充実

生徒によってその学習状況は様々である。言語活動を行う際に生徒の学習状況に応じた複数の教材を準備するなど個に応じた指導を充実させることが必要と考える。

#### 「正確さ」「適切さ」の向上

今回の実践研究では「学習意欲の向上」については確認できたが、生徒の「話すこと」、「書くこと」における正確さや適切さの向上については十分に確認できなかった。今後、意欲的な発話や記述を正確で適切な発話や記述にまで高めるためには、どのような取り組みをしたらよいかについて実践を積み重ね研究する必要がある。

平成15年度教育研究員研究報告書

東京都教育委員会印刷物登録  
平成15年度 第31号

平成16年1月21日

編集・発行 東京都教職員研修センター  
所在地 東京都目黒区目黒1-1-14  
電話番号 03-5434-1976

印刷会社名 勝田印刷株式会社